

令和6年度第2回 中標津町上下水道運営委員会 会議録

日 時：令和7年1月28日（火） 15時30分～16時40分

会 場：中標津町役場 3階 301号会議室

出席者：〈委 員〉8名（欠席5名）

〈事務局〉10名

1. 開会

2. 挨拶

建設水道部長

3. 議事

報告 第1号 水道ビジョンの策定について（水道係長より説明）

報告 第2号 下水道中期ビジョンの策定について（下水道係長より説明）

報告 第3号 経営戦略の策定について（業務係長より説明）

5. 質疑・意見等

委 員：給水人口が減少していく見通しの中で、設備については今後も現状の稼働能力を維持する考えなのでしょうか。

水道係長：施設のダウンサイジングといった、機能を落として更新する計画はありません。まだ現状の稼働能力を維持する段階であると考えています。

委 員：目標耐用年数と法定耐用年数は、どのくらい差がありますか。
また、給水人口の減少は、国内の人口減少率に合わせているのでしょうか。
（水道事業経営戦略P4、（1）給水人口の予測、（4）施設の見通し）

業務係長：目標耐用年数は設備により異なりますが、管路等の法定耐用年数は40年～50年が一般的です。

また、人口減少率については、国立研究所や国勢調査の結果等をベースにしています。

委 員：料金等を、全国平均や全道平均と比較できるような指標や数値があると、非常に分かりやすくなると思います。

業務係長：経営戦略の3ページ目に経営比較分析表がありまして、こちらで全国平均や類似団体等との比較ができるようになっていきます。

(各委員から、わかりにくい、見にくい、とのご意見あり)

今後、当委員会で下水道使用料の料金改定を検討する際には、見やすく、比較しやすい資料を作成して参ります。

委員：高くなる理由や、それが地域の特性だったり、他の自治体との比較ができるものがあると説明もしやすくなると思います。

委員：下水道は無くしてはならない設備なので、料金を上げるのは仕方ないという印象ですが、あとはいかに町民の方に納得いただけるかが重要だと思います。

委員：料金も大事ですが、民間も含め技術系職員の補充が大変な状況だと思います。DX化が進む一方で、ノウハウを持った人間をしっかり育てていく必要があるのではないのでしょうか。

建設水道部長：技術職員の確保には非常に苦労している状況です。学校訪問等も実施していますが、学生さんが都市部に流れていく傾向もあり、地方の自治体はどこも同じ課題を抱えていると思います。職員が不足する状態が続くと、広域的に技術職員を抱えたり、一般職員を技術職員として育てる等、様々な手段も視野に入れながら考えていかなければなりません。

委員：人材確保の件で言うと「先行事例を参考に、第三者委託範囲の拡大や包括委託について検討します」とありますが、実際に委託先の選定をしているのでしょうか。また、具体的にどのような先行事例がありますか。

(水道事業経営戦略 P7、施策5)

業務係長：検針業務は既に委託済みですが、包括委託等については、まだ検討を進める段階となっています。先行事例としては、窓口業務を完全に民間へ委託している自治体等があります。

委員：ほくでんのメーターは全部スマートメーターになっていたかと思いますが、水道メーターはどうなっていますか。

建設水道部長：当町の水道メーターはアナログです。スマートメーターに切り替えれば、検針業務をしなくてもデータを取り込めるようになりますが、相当な費用がかかりますので、更新するスパン等を計画的に考えていく必要があります。また、メーカーにより多種多様な通信方法がありますので、そこも含めて検討を進めていく段階になります。

5. その他

令和7年度の委員会では、下水道使用料の改定について検討を進めるにあたり、次回は4月頃の開催を予定する。（時間帯については、従来どおり19時頃を予定）

（了）

【会議の様子】

